

# 「一帯一路」と安全保障 —日本の観点から—

浅野亮(同志社大学)

# 1. 「一帯一路」の展開

- (A) 主導的側面:

- (1) 2013年、習近平の2つの演説

- (2) 2014年11月、APEC(北京)演説

- (B) 受動的側面:

- (1) 「新型の大国関係」(米中関係)

- (2) 「インド太平洋」(米、日米豪印)

## 2. 「一帯一路」の性格

- (A) 経済

過剰生産能力、国有企業、貧困対策  
(→「新常态」への暗黙の対応)

- (B) 安全保障(地政学)

エネルギー、食糧など

→その組み合わせの意味は？

# 3. 「一帯一路」の性格転換

- (A) 「周辺外交」として  
米中関係: 「新型の大国関係」 → 「西進」
- (B) 転換点: 主導権の獲得という認識
  - (1) AIIBの「成功」(2015.3: 英仏独伊の参加表明)
  - (2) 「一帯一路」国際会議(2017.5)
- (C) グローバル指向: 対米関係とリンク
  - (1) 「上海協力機構」やASEAN+3を超える役割
  - (2) 日本などの取り込み(アジア金融協力協会の  
設立 2017.5)
  - (3) 既存の国際秩序へ共存と挑戦

# 4. 「一帯一路」:日本の認識(1)

## ▪(A) 内容

- (1) 実際の展開に主要な関心
- (2) 中国:グローバルな超大国指向
- (3) 米中/日中関係の試金石

## ▪(B) 形成の過程

- (1) 「進化的」(evolutionary)
- (2) 最高指導者の威信
- (3) 政治的決定

## 5. 「一帯一路」:日本の認識(2)

- (A) 地政学・安全保障の側面を急速に意識
  - (1) 海洋安全保障の脆弱性
    - (a) The Malacca Dilemma
    - (b) インド洋
  - (2) 陸路による代替(経済的非効率)
  
- (B) 対外政策:「韜光養晦」から「大国外交」
  - (1) 南シナ海の「安定」と実効支配強化
  - (2) 遠海作戦:海外基地(ジブチなど)

## 6. 「一帯一路」:日本の認識(3)

- (A) 協力(Win-Win)によるコントロール  
相手の選択肢を制約、軍事手段へ
- (B) 漸進的秩序変容
  - (1) 「危機のコントロール」(「危機管控」)
  - (2) その前提: 危機発生と収拾の反復
- (C) 覇権交替の論理
  - (1) 経済と軍事の組み合わせ
  - (2) 金融とネット
    - (a) 人民元圏の形成、基軸通貨化
    - (b) ネット決済の普及、監視と管理

# 7. 「一帯一路」: 日本の認識(4)

- (A) 持続可能性(sustainability)の検討

- (1) マイナス: 労働力人口の減少、財政

- (2) プラス: 科学技術の普及、産業構造転

換

- (B) 国際関係

- (1) 「微笑外交」とAssertiveness増大

- (2) 地域紛争へ関与増大、負担増大

- (3) 米中関係、中露関係(北極航路など)

# 8. 「一帯一路」以後

- (A) 現状把握と予測の困難：「複雑系」
  - (1) 最高指導者個人（健康！）と国内政治
  - (2) 地域の広範囲化（グローバルに）
  - (3) 要因の連動：経済、安全保障など  
    安保：海洋、宇宙、サイバーなど
  
- (B) すべての国に「機会」で「挑戦」
  - (1) 科学技術の急激な進歩（予測・管理）
  - (2) 相互理解を超える「誤解」の連鎖？

至此結束。感謝傾聽

ご清聴、ありがとうございました。